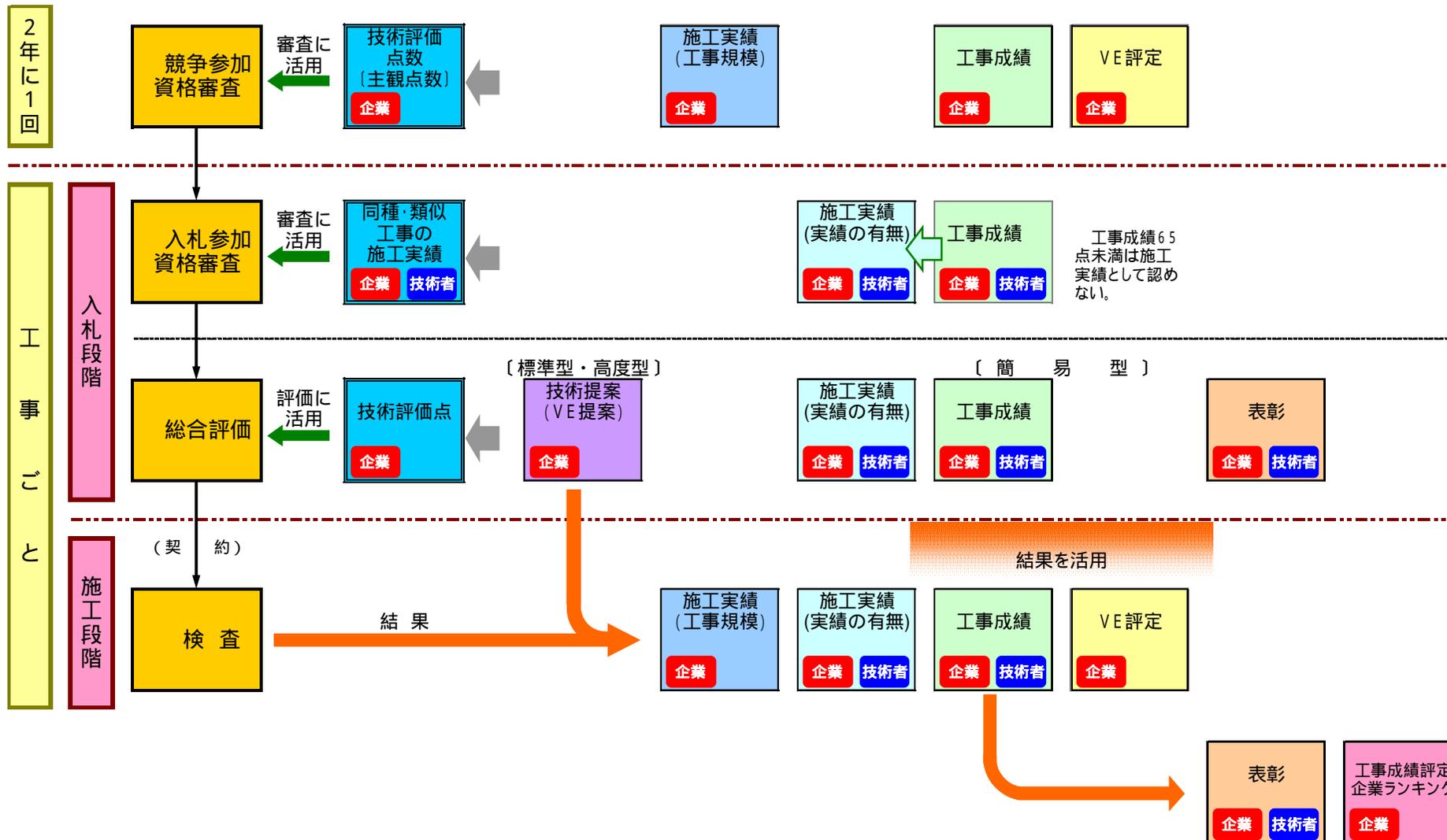


企業の技術力を重視した格付制度の 方向性

平成18年10月31日

1. 企業の技術力評価の指標 (1/2)

技術力評価指標の活用状況



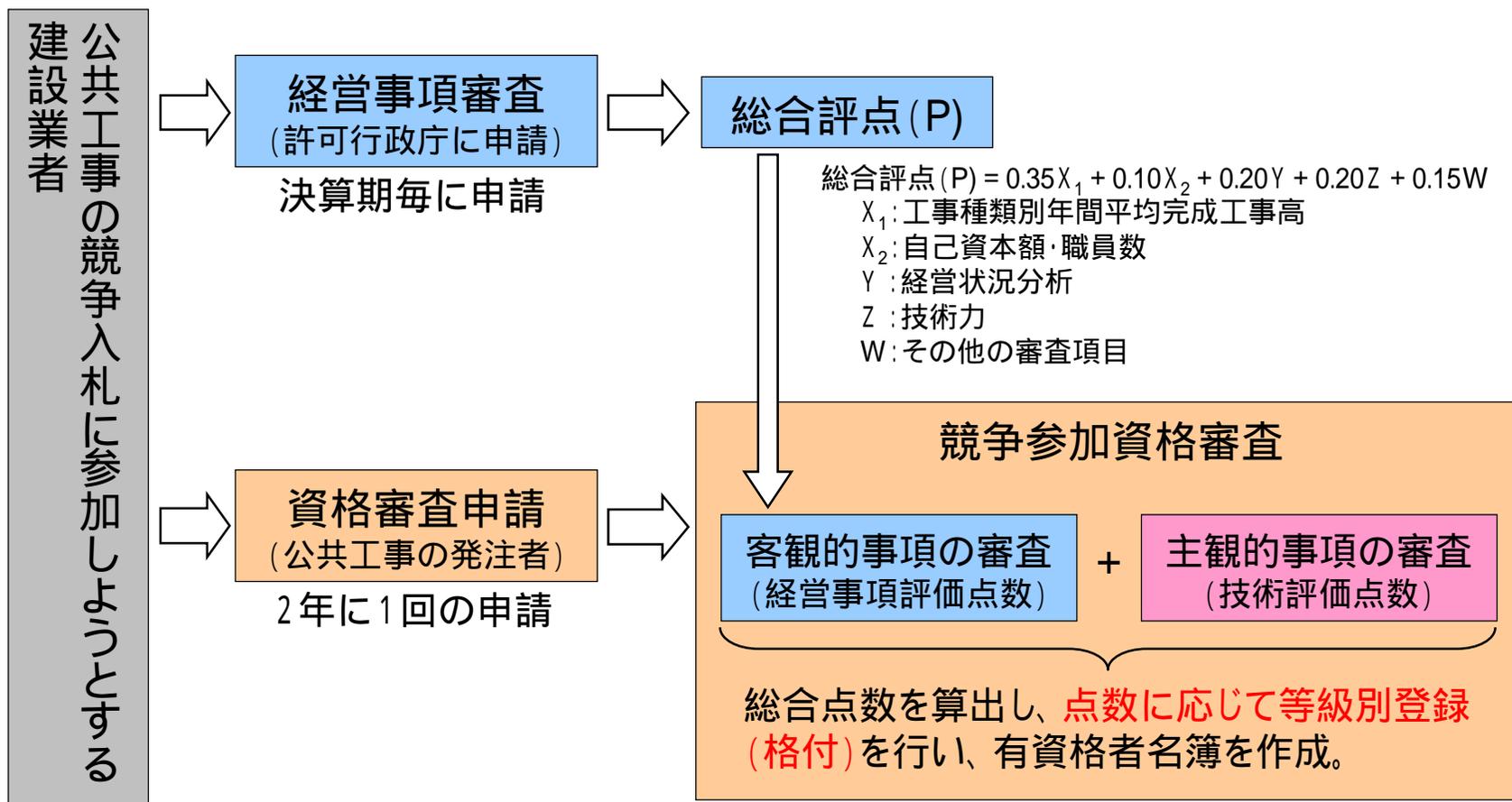
1. 企業の技術力評価の指標 (2/2)

技術力評価指標の特徴

| | 頻度 (時期) | 対象工事 | 長 所 | 短 所 |
|-------------------|---------------|-------|---|---|
| 技術評価点数 (主観点数) | 2年に1回 | 過去4年間 | 受注した工事の規模や難易度、工事成績等を勘案した企業の総合的な技術力を定量的に評価できる。 | 2年に1回の審査であり、また過去4年間に完成した工事を対象とするため、直近の施工実績を反映することができない。 |
| 施工実績 | 工事ごと (完成時) | 当該工事 | 同種・類似工事の施工実績の有無により企業及び技術者の技術力を評価できる。 工事完成と同時に評価できるため、結果を機動的に活用できる。 | 同種・類似工事の設定が難しい。 実績確保を目的としたいわゆるダンピング受注を引き起こすことが懸念される。 |
| 工事成績 | 工事ごと (完成時) | 当該工事 | 個々の工事における企業及び技術者の技術力を定量的に評価できる。 工事完成と同時に評価できるため、結果を機動的に活用できる。 | 総合評価方式において優れた技術提案をしたことが工事成績に反映される仕組みとなっていない。 |
| VE 評定 | 工事ごと (完成時) | 当該工事 | 企業の技術開発能力・提案能力を表す指標として活用できる。 受注できなかった企業についても評価することができる。 | 工事ごとに評価されるため、他の工事と横並びで評価する場合には調整が必要。 |
| 総合評価における 技術評価点 | 工事ごと (入札時) | 当該工事 | 工事ごとに評価項目や配点を設定し、企業の総合的な技術力を評価できる。 受注できなかった企業についても評価することができる。 | 工事ごとに評価されるため、他の工事と横並びで評価する場合には調整が必要。 |
| 表彰 | 1年に1回 | 過去1年間 | 特に優れた技術力を有する企業及び技術者であることを表す指標として活用できる。 | 1件でも良い工事をすると表彰を受けることができるため、技術力を過大評価する可能性がある。 |
| 工事成績評定 企業ランキング | 1年に1回 | 過去2年間 | 特に優れた技術力を継続的に有する企業であることを表す指標として活用できる。 | 2年間の工事成績により平均を算出するため、それ以前の成績が反映されない。 |

2. 競争参加資格審査の概要 (1/6)

公共工事の競争参加資格審査の概要



2. 競争参加資格審査の概要 (2/6)

2年ごとに実施

.....

平成15・16年度

平成17・18年度

平成19・20年度の競争入札参加資格者名簿を

前年度の10月～1月の間に申請受付、3月までに作成、通知。

平成19・20年度競争参加資格審査の概略スケジュール

| 平成18年 | | | 平成19年 | | |
|-----------|-----|-----|-------------|-------|-------------------------------|
| 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
| 業者からの申請受付 | | | 受付データ 集約 | 仮名簿作成 | 幹事会 審査会 認定 通知書 発送 |

2. 競争参加資格審査の概要 (3/6)

総合点数 = 経営事項評価点数 (客観点数) + 技術評価点数 (主観点数)

経営事項評価点数 (客観点数)

建設業者は決算期ごとに経営事項審査を受ける必要があり、資格審査申請時には直近の経営事項審査から、下式により算定した総合評点が客観点数となる。

$$\text{総合評点 (P)} = 0.35X_1 + 0.10X_2 + 0.20Y + 0.20Z + 0.15W$$

X_1 : 工事種別年間平均完成工事高

X_2 : 自己資本額・職員数

Y: 経営状況分析 (収益性・流動性・安定性・健全性)

Z: 技術力 (技術職員数)

W: その他の審査項目 (労働福祉の状況・工事の安全成績・営業年数・建設業経理事務士の数)

技術評価点数 (主観点数)

過去4年間の直轄工事の施工実績をもとに点数化

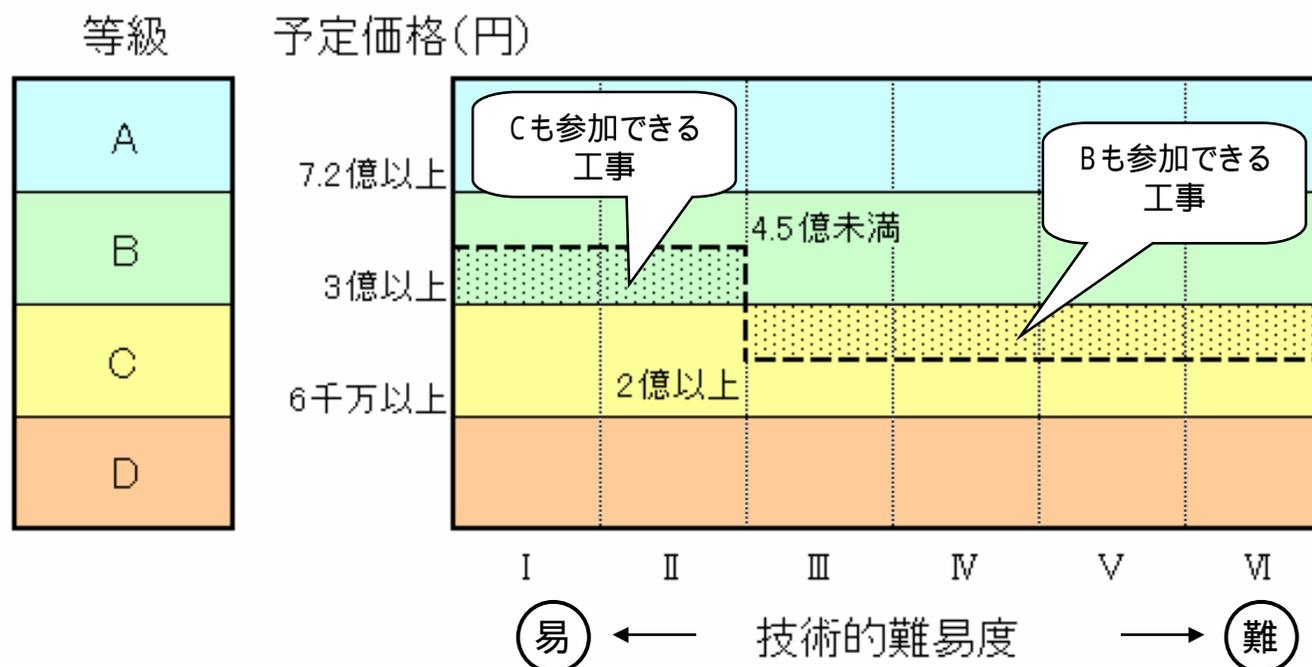
$$\text{合計点数} = \{ ([\text{成績評定}] - 65) \times [\text{技術的難易度}] \times [\text{工事規模}] \times [\text{VE等評価}] \times [\text{部局係数}] \}$$

2. 競争参加資格審査の概要 (4/6)

発注標準

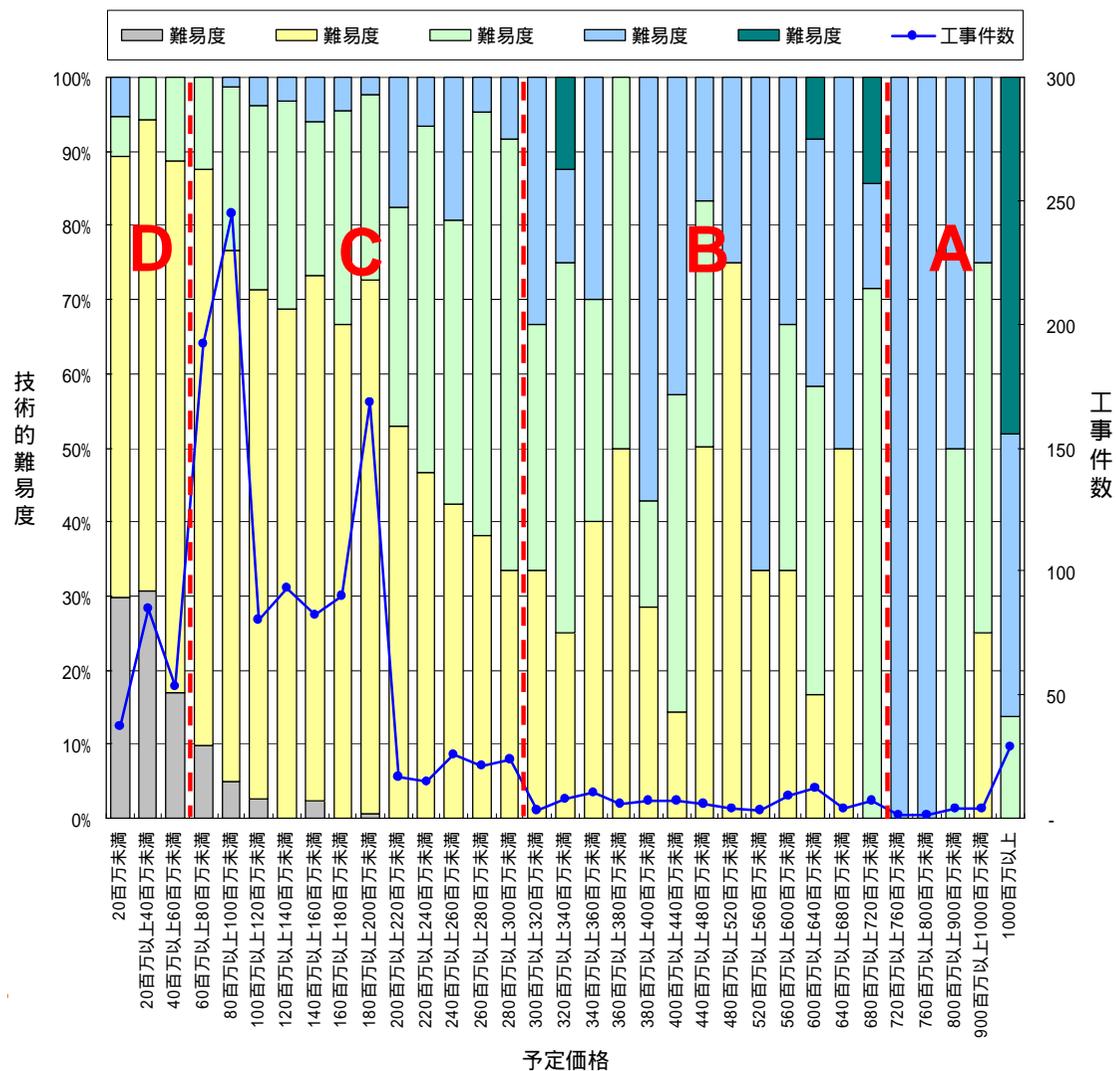
競争参加資格審査により決定された等級(A, B, C, D)に応じて、入札に参加できる工事規模を設定。(下図は一般土木の例)

技術的難易度に応じて、一部ランクアップ、ランクダウンあり。



2. 競争参加資格審査の概要 (5/6)

工事規模別の難易度分布



| 業者等級 | 難易度別工事成績 | | | | | 平均 |
|------|----------|------|------|------|------|------|
| | D | C | B | A | その他 | |
| A | 73.4 | 74.8 | 78.3 | 75.4 | 77.6 | 76.0 |
| B | 75.5 | 75.0 | 75.9 | 77.4 | 68.0 | 75.6 |
| C | 71.7 | 73.9 | 74.7 | 77.2 | - | 74.1 |
| D | 69.1 | 71.9 | 74.6 | - | - | 71.7 |

| 業者等級 | 難易度別工事件数 | | | | | 計 |
|------|----------|-----|-----|----|-----|-----|
| | D | C | B | A | その他 | |
| A | 8 | 16 | 15 | 34 | 16 | 89 |
| B | 2 | 57 | 57 | 16 | 1 | 133 |
| C | 47 | 660 | 210 | 25 | - | 942 |
| D | 8 | 29 | 5 | - | - | 42 |

注) 関東地方整備局における平成16・17年度完成工事のうち一般土木を対象に整理

2. 競争参加資格審査の概要 (6/6)

業者数と工事契約件数の比較 (一般土木)

(単位: 社、件、百万円)

| 業者等級 | 有資格業者数 | | | | | | | | | 契約状況 | | | 件数 / 業者数 |
|------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|---------|-------|----------|
| | 東北 | 関東 | 北陸 | 中部 | 近畿 | 中国 | 四国 | 九州 | 地整計 | 件数 | 当初契約金額 | | |
| | | | | | | | | | | | 平均 | | |
| A | 30 | 41 | 31 | 31 | 37 | 33 | 29 | 27 | 259 | 77 | 155,837 | 2,024 | 0.30 |
| B | 57 | 103 | 68 | 68 | 115 | 45 | 48 | 44 | 548 | 219 | 78,006 | 356 | 0.40 |
| C | 1,087 | 1,549 | 922 | 865 | 1,159 | 569 | 533 | 818 | 7,502 | 2,849 | 345,784 | 121 | 0.38 |
| D | 3,056 | 4,422 | 2,723 | 3,451 | 6,741 | 2,878 | 1,975 | 5,699 | 30,945 | 486 | 12,641 | 26 | 0.02 |
| 計 | 4,230 | 6,115 | 3,744 | 4,415 | 8,052 | 3,525 | 2,585 | 6,588 | 39,254 | 3,631 | 592,268 | 163 | 0.09 |

注) 有資格業者数は、平成18年4月1日現在(港湾空港関係を除く)。「地整計」は、各地方整備局の重複を含んだ数。
 契約状況は、平成17年度における8地方整備局(港湾空港関係、随意契約を除く)の合計値。

3. 企業の技術力を重視した格付制度の方向性(1/3)

企業の技術力評価の指標として、何をどのように活用できるか

透明性・競争性の高い調達制度を前提に、良い仕事をした企業が受注機会を拡大する等報われるように企業の実績や努力が受注者選定に適切に反映される仕組みとなっているか。(中循環)

| 技術力評価の指標(例) | | データ整備の現状 | | 現在の活用状況 | | |
|---------------|-----------|----------|--------|---------------------|--------------------|----------------|
| | | 直轄 | 地方公共団体 | 競争参加資格審査 (2年に1回) | 入札参加資格審査 (工事ごと) | 総合評価 (工事ごと) |
| 施工実績 | 元請企業 | | | 工事規模 | 実績の有無 | 実績の有無 |
| | 下請企業 | × | × | | | |
| | 技術者 | | | | 実績の有無 | 実績の有無 |
| 工事成績 | 元請企業 | | × | 評定点 | 実績の判断材料 | 評定点 |
| | 下請企業 | × | × | | | |
| | 技術者 | | × | | 実績の判断材料 | 評定点 |
| 総合評価における技術評価点 | | | × | | | 技術評価点 |
| VE 評定 | | | × | 評定点 | | |
| 表彰 | | | × | | | 表彰の有無 |
| 工事成績評定企業ランキング | | | × | | | |
| 企業情報 | 技術者数 | | | 技術職員数 | | |
| | 有資格技術者数 | | | 技術職員数 | | |
| | CPD取得技術者数 | | × | | | |

数字は活用するデータの期間(年)を表す。

3. 企業の技術力を重視した格付制度の方向性(2/3)

2年に1回行う競争参加資格審査において企業の技術力をどのように評価するか

現行の企業の格付制度及び発注標準が適切か。



〔企業の格付制度〕

技術評価点数(主観点数)に企業の技術力が適切に反映されているか。

総合点数が客観点数と主観点数をバランスよく組み合わせて算出されているか。

〔発注標準〕

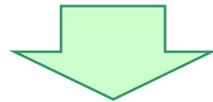
現行の発注標準が、工事規模や難易度を適切に区分できているか。

企業数と工事発注件数はバランスしているか。

3. 企業の技術力を重視した格付制度の方向性(3/3)

工事ごとに行う入札参加資格審査において企業の技術力をどのように評価するか

技術的難易度が高い工事を対象に、技術力に特化した新たな格付を行い、入札参加要件として活用してはどうか。



(例えば)

技術評価点数(主観点数)による格付

工事成績評定企業ランキングによる格付

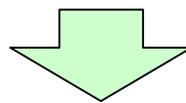
工事内容(例えば、トンネル、ダム、橋梁等)ごとの企業の技術力を格付

工事内容ごとの施工実績や工事成績、総合評価における技術評価点、優良な技術者数等により新たな評価指標を作成し、格付

(参考) 工事成績評価ランキングの公表

✓公共工事の透明性の確保や民間事業者の技術力の向上を一層促進するため、各地方整備局毎に直轄土木工事を受注した各企業の過去2箇年の工事成績評価の平均点を算出し、ランキングを公表(平成18年8月9日公表)。

✓平均点80点以上の企業に対しては、地方整備局毎に「工事成績優秀企業(仮称)」として認定し、中間技術検査の免除等の優遇措置を実施。



具体的な優遇措置

『工事成績優秀企業(仮称)』として認定(ゴールドカード制度)。

認定マークは「主任(監理)技術者の名札」「名刺」等への使用可能
中間技術検査の免除 (通常2回実施を義務づけ)
総合評価落札方式の評価項目として活用を検討

工事成績評価ランキング対象企業

- ・過去2箇年に完成した直轄土木工事(9工種)の施工実績を3件以上有する企業を対象。
- ・各地方整備局毎に過去2箇年の平均点を基に順位付け。

【対象工種】

一般土木、アスファルト舗装、鋼橋上部、セメント・コンクリート舗装、プレストコンクリート、法面処理、河川しゅんせつ、グラウト、杭打



『工事成績優秀企業(仮称)』の認定マーク

| 監理(主任)技術者 | |
|-----------------------|------------|
| 写真 2cm x 3cm 程度 | 氏名 |
| | 工事名 改良工事 |
| | 工期 自 年 月 日 |
| | 至 年 月 日 |
| | 会社 建設株式会社 |
| | 印 |

主任(監理)技術者の名札への認定マークの使用イメージ